

2 学校教育

～子どもたちの豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまち

<基本計画の目標>

学校・家庭・地域が連携して、児童生徒が安心して学べる地域に開かれた安全な学校づくりを進めます。
 児童生徒に基礎・基本の確実な定着と自ら学ぶ意欲をはぐくむ教育を充実します。
 鎌倉の特徴である自然環境や歴史的遺産、文化・芸術にふれる教育を推進し、児童生徒の豊かな人間性をはぐくみます。
 児童生徒に社会性・道徳性を身につけさせ、ともに生きる社会づくりの大切さや健やかな心と体をはぐくみます。
 障害のある児童生徒や教育的支援が必要な児童生徒のニーズに応じた、きめ細かな教育を充実します。
 学校施設については、将来の教育環境の変化に対応し、児童生徒が健康で安全な学校生活を送る場として、また、地域における防災や生涯学習の拠点として整備を進めます。

<目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

市民満足度	当初値	H18 実績	H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 目標値	H22 実績	H23 実績	H27 目標値
「鎌倉市は、子どもたちが個性と主体性を活かし、豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまち」だと感じている市民の割合	38.5%	33.7%	37.9%	43.5%	37.8%	50.0%	40.4%	43.8%	60.0%

<6年間の取組の評価>

【教育部】

児童生徒に基礎・基本の定着と自ら学ぶ意欲を育む教育、また、児童生徒の豊かな人間性・健やかな心と体を育む教育に努めてきましたが、市民の満足度の目標値にはまだ到達していません。
 「めざすべきまちの姿＝子どもたちの豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまち」に対する市民の満足度を高めるためには、引き続き教育内容の充実と教育条件の整備に取り組み、子どもたちの「生きる力」を育む教育の向上を市民が実感できる施策を行う必要があります。

<今後の方向性>

【教育部】

子どもたちの「生きる力」の育成を支える確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む教育の充実をめざし、教員の指導力を向上させるための研修や情報提供、また学校への支援に努め、少人数教育等の教育条件の整備をさらに進めていきます。
 また、学校が家庭や地域と協力して、子どもが安心して学べる地域に開かれた安全な学校づくりに取り組んでいくとともに、障害のあるなしに関わらず、特別な支援を必要とする児童生徒の多様化する教育的ニーズに対し、学校や教員が十分に対応できるような教育環境の整備(人的支援を含めて)を進めていきます。

鎌倉市民評価委員会の評価

《この分野の6年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見》

- ・耐震化やエレベーターの設置等、インフラ整備については計画に従って実施されている。とりわけ、学校施設の安全性を高める努力(耐震化等)を払われてきた印象で、3.11のことを考えると必要な取組だったと評価できる。しかし、「学校・家庭・地域が一体となった」「地域に開かれた学校の施策」等、他の事業については具体的な効果を見て取ることができない。この分野の存在意義が見えてこない。
- ・地域に開かれた学校づくりを進め、学校と保護者が一体となって教育の質を高めていく取組がなされている。発達障がいの子どものために、専門家や支援要員の拡充を進めている。
- ・学校が保護者や地域にも開かれた場所になるような取組が見られる。
- ・保護者と学校が一体となって教育の質を高めていた。
- ・震災後、学校の防災が問題となり、今後の取組が重要である。
- ・環境整備(空調、トイレなど)の改善を進めて、良い環境で学校教育が行われて欲しい。
- ・基本計画策定時、特色ある学校づくりを標榜していたと受け取っているが、その成果を具体的に知りたい。
- ・多数の専門員等が学校教育に関与しているが、情報は共有されているか。

評価の内訳(委員数)					⇒	評価委員会の評価
◎	1	○	7	△		0

《将来のまちづくりの展望に向けたこの分野に関する意見》

- ・“学校”“家庭”“地域”等、種々の教育がある。更に、行政機関が直接行う教育事業と、その環境を整えるなどのサポート事業がある。それらを明確にして、市として行うべきものは何であるかを具体的にし、焦点を絞った施策を実施すべきと考える。
- ・「学校教育」では、教室の耐震工事等のハードな施策が多い。今後は、教育の内容についても施策として取り上げ、実施していただきたい。
- ・鎌倉の特色(みどり・歴史)を教材にして鎌倉の理解を深める教育を進めてほしい。次代の古都鎌倉を担う児童生徒に伝統を継承し、新しい文化の創造をめざす教育を推進してもらいたい。
- ・地域に開かれた学校づくりは今後もさらに進めてほしいが、地域に開かれた学校環境づくりや、地域人材の教育への活用、防災マニュアルの見直し、少人数教育の推進、食育の推進、相談事業の推進、教員研修、など多くの課題が挙げられている。本当にこの分野ですべきことか。
- ・子ども達に社会性、規範、道徳を教えても、家庭、地域社会でそれらが破壊されていけば、教育の成果は発揮できない。学校は子どもの教育とともに、その親の教育も併せて行っていく必要がある。
- ・団塊世代の退職に伴う、経験の浅い教員の急増は問題であり、生徒指導のあり方を検討する必要がある。
- ・いじめ問題は相談し易い環境を整え、周りの大人も気づき対処できるようにしていくシステムが必要である。
- ・学校教育については、直接教育を行っている先生方との連携が重要である。
- ・非常勤講師や学級介助員等、様々な人員の配置を行っているが、今後は、その効果について調査及び評価を行い、有効性を検証することも重要である。
- ・いじめ問題への対策は、学校と保護者が積極的に取り組まなければ改善は難しいだろう。地域に開かれた学校にするための施策に、もっと工夫が欲しい。学校内が孤立した空間にならないよう注意したい。

《この分野に関する総括意見》

- ・学校教育と社会教育の連携、地域福祉との連携など、鎌倉独自の施策形成を期待したい。
- ・インフラ整備は重要であるが、もう少し具体的に教育そのものの内容や効果を見られるようにしていただきたい。
- ・当市の置かれる状況から学園都市をめざす施策の検討も十分価値があると思う。
- ・特に思春期(中学生)の学校教育は青少年育成と連携する体制の構築が必要である。
- ・「学校教育」のめざすべきまちの姿に、家庭内教育が重要な位置を占めていることを強調したい。
- ・教育委員会とどのように役割を分担して、この分野としてのすべきことと、それに対する評価を、市民に分かりやすく説明するための検討が必要であろう。